

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第4回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

- (1) 平成31年度予算及び事業計画について
- (2) その他

3 開催日時

平成31年3月26日(火) 午前10時30分から11時40分まで

4 開催場所

上越市立高田図書館 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：上原委員、大越委員、河村委員、田中(美)委員、藤巻委員、丸山委員
- ・事務局：社会教育課 内藤高田図書館長、小暮副館長、丸山係長、佐藤係長、柴山直江津図書館長、内山係長、山本社会教育係長

7 発言の内容(要旨)

<上越市立図書館条例施行規則第20条第2項及び第3項の規定により、丸山副委員長が議長となる>

○平成31年度予算及び事業計画について

事務局 <別紙資料1により平成31年度予算について概要説明>

議長 :すでに議会で承認された後であり、変更の余地はないと思うが、図書充実費が減り、管理運営費等のハード面は増えていて、図書館全体としては増えているという理解でよいか。肝心の図書や雑誌、新聞について減らしていくという提案があったが、意見、質問があれば発言願いたい。

上原委員 :かなりの数の雑誌、新聞が3月いっぱい受け入れ停止とのことだが、「キネマ旬報」という映画雑誌は非常に人気がある雑誌だと思っている。今回、受け入れ停止に上がっている雑誌のなかには、確かに利用

が少ないと思われるものもあるが、高田には高田世界館という日本最古級の映画館があるので、できれば高田図書館で「キネマ旬報」を受け入れてもらうよう要望したい。また、直江津図書館の「交通新聞」に関しても、利用頻度は少ないのかもしれないが、直江津図書館には鉄道関係の図書が大変充実しており、直江津の特色であり全国にアピールしているなかで、受け入れ停止とするのはおかしいのではないかと。また、高田図書館には小川未明文学館があり、小川未明のふるさとでもあるなかで、雑誌「日本児童文学」を受け入れ停止とするというのも再考願いたい。このほかにもいろいろ思うところはあるが、この3点についてはぜひ再考をお願いしたい。

議長 : 新聞、雑誌について、これで確定なのか。再考の余地はあるのか。

内藤館長 : 司書の間で、時間を費やして出した結論がこのとおりである。ただ、必要に応じて、他の雑誌を受け入れ停止とし、今回提示した雑誌を復活させるという可能性はある。とはいえ、雑誌にかかる費用が膨らめば、図書費を削っていかなければならない状況である。再度、検討させていただこうと思うが、要望すべてに応えられると確約はできない。どの雑誌もやめるべきとは思っていない。市長の発言のなかにも、正しいもののなかから正しいものを選択するとあるように、市の財政状況はそこまで厳しいことを理解いただきたい。新潟県立図書館も予算を10%削減されたと聞いている。

事務局 <別紙資料2により平成31年度事業計画について概要説明>

上原委員 : 昨年の秋に新潟県立図書館と共催でオーレンプラザで講演会があり、非常に好評だったが、平成31年度はそういった催しは予定しているか。

内藤館長 : 昨年の秋に実施した新潟県立図書館の催しについては、新潟県立図書館としても初めての出張講演会だったと聞いている。新潟県立図書館に確認したところ、それだけの規模の催しとなると、予算は隔年でしか獲得できず、平成31年度については実施予定はないとのことだった。ただ、小規模な講演会であれば計画があるということなので、日程的に都合がつけば、上越での開催を打診していきたいと考えている。

また、昨年、直江津学びの交流館で開催した川端誠さんの講演会も県の生涯学習推進課の事業であるため、今後もそういった機会があれば活用していきたい。

議 長 : この事業計画は平成30年度と比べてどうか。入れ替えた事業や、ここに力点を置いているなどがあれば教えてもらいたい。

内藤館長 : 平成31年度の秋に予定している健康に関する講演会は上越地域医療センター病院と連携して実施するものである。平成30年度は初めてガス水道局と連携して絵本に出てくるお菓子を作る企画を実施した。昨年は高田図書館創立110周年ということもあっていろいろな企画を実施したが、平成31年度については秋の健康講演会と、クリスマス時期に予定しているサイエンス関連の催しで上越科学館の協力を得たいと考えている。先日、ユートピア頸城希望館で手作りのパペットを使ったスペシャルなおはなし会を実施してもらい、好評だったと聞いている。もっと広報すればたくさんの方に来ていただけると思うので、そういったところにも力を入れていきたい。

議 長 : では、事業ひとつひとつに目を通して意見、質問をいただきたい。
1ページ目のおはなし会はどうか。ほぼ例年どおりということか。

内藤館長 : そのとおりである。

議 長 : 2ページ目についてはどうか。
(特に発言なし)

議 長 : 3ページ目についてはどうか。

上原委員 : 夏休み企画に上がっている地元のコレクターの方のコレクションの展示は、素晴らしいコレクションである。せっかく展示するのであれば、関連する本もテーマ展示して貸出してはどうか。

内藤館長 : せっかくの機会であり、また、夏休み期間中でもあるので、図書館4館合わせて関連する本を展示していきたいと考えている。また、水族博物館も関連付けて宣伝できればとも考えている。

議 長 : 夏休みの企画ということで、ぜひ工夫して充実した催しになるよう、取り組みをお願いしたい。テーマ展示の意見が出たが、こういったテーマで本を展示したらという提案はないか。

内藤館長 : テーマ選定に悩むこともあるので、そういった提案は歓迎したい。

(特に発言なし)

- 議 長 : 例年、ブックリサイクルが問題に上がっているが、平成30年度もリサイクルとして持ち込まれたものの、処分せざるを得なかった本は多かったのか。
- 内藤館長 : 数十年前の百科事典や、あまりに古めかしい本はリサイクルコーナーに並べても持って行ってもらえない。リサイクルとして持ち込まれたものは職員が目を通してはいるが、そういった古い本は受け入れできるものではない。
- 議 長 : 新潟県公立図書館協議会委員連絡協議会への参加者数が年々、少なくなっているように感じるがどうか。
- 小暮副館長 : 年々少なくなっている実感はある。
- 議 長 : 平成31年度も計画があるようなので委員の皆さんの積極的な参加をお願いしたい。
- 河村委員 : 健康講演会はいい企画だと思っている。講演会を同じ内容で2回くらい開催することはできないか。あと、宣伝もしっかりお願いしたい。図書館が何をしているのか知らない人も多いと思う。多くの参加があれば、次年度以降の開催にもつながっていくと思う。
- 丸山係長 : この催しは、上越地域医療センター病院の出張講演の事業を活用して実施するものである。不確かな健康情報が氾濫している昨今において、確かな情報を得て健康に過ごしてもらいたいとの思いから、既存の出張講演のプログラムではなく、こちらからテーマを提示して受諾してもらった企画である。先方の都合もあると思うので、平成31年度中に複数回というのは難しいかもしれないが、今後、異なる内容で実施することは有り得ると思う。
- 上原委員 : 障害者サービスについて、どのように周知を図っているか。利用状況についても教えてもらいたい。
- 内藤館長 : 周知については、視覚障害者団体にお知らせをしているところである。すでにサービスを利用されている方には、新しく入った本についても周知している。また、近々、視覚障害者団体の会合があり、そちらでも広報を行う予定である。また、上越日赤マザーテープの会のみなさんからも、民生委員を通じて録音図書のパブリシティをしていただいている。

議 長 : 広報してもなかなか効果は見えて来ないかもしれないが、地道な努力を続けざるを得ない。録音図書を知らない人も多いし、視覚障害者ではない一般の高齢者も利用できるということも広報していかなければならない。

内藤館長 : なお、平成29年度の障害者サービス利用者数は延べ人数で365人である。

議 長 : 続いて、議題の(2)その他について、議案があれば報告願いたい。

小暮副館長 : 例年、1月、2月に蔵書点検作業を行い、行方不明になっている本がないか調べている。その調査結果について、口頭報告させていただく。

丸山係長 : 平成30年度の蔵書点検結果について報告する。高田図書館では、1月17日から1週間、直江津図書館では1月28日から1週間、浦川原分館については2月5日、頸城分館については2月7日に点検作業を実施した。点検対象は、図書、視聴覚資料、雑誌である。高田図書館では、対象冊数約26万冊のうち242冊が不明、割合としては0.09%である。直江津図書館は対象冊数15万6,500冊のうち、21冊が不明、不明率0.01%である。浦川原分館は約21,500冊のうち、不明は1冊だけ。頸城分館は約16,600冊のうち、9冊が不明、不明率0.05%である。やはり、高田図書館の不明冊数が多いところだが、点検時には不明になっていても、翌年以降、本が戻ってくる場合もある。不明になった本のうち、3年連続して不明になったものについては、行方不明の資料として、蔵書から除籍している。今回は平成28年度から継続して不明のものを除籍したが、高田図書館は160冊、割合にして0.06%、直江津図書館は39冊、0.01%であった。不明になる本の傾向は一概には言えないものの、いずれも貸出を経ずに持ち出されているということである。

上原委員 : 不明冊数ではないが、所定の棚に戻っていない本も多いのか。それらを見つけ出して正しい棚に戻すという作業は行っているか。

小暮副館長 : そういった作業は蔵書点検に限らず、日常的に行っているほか、毎月の館内整理日にも行っている。

丸山係長 : 例えば、分館の本を誤って高田図書館の棚に戻してしまうこともあれば、利用者が棚から取り出して別の棚に戻してしまうこともある。探

している本が所定の棚に見つからなければ、複数の職員で探すことも行っているが、それでも見つからなければ、他の図書館から借用して提供するという対応も取っている。

議 長 : 返す棚がわからなくなった本を置く台が郷土資料コーナーにあったようだが。

丸山係長 : 他の図書館でも同様の置き場所を用意している例があるが、高田図書館ではスペースの都合で郷土資料コーナーにしか用意できていない。

議 長 : 予定していた時間となったところでもあるので、議事はこれで終了としたい。

内藤館長 : 本日はお忙しいなか、お集まりいただき大変ありがとうございました。
また、本年度は子どもの読書活動推進計画の策定のため、ご足労おかけしたこと、改めてこの席を借りて感謝申し上げます。

○その他

事務局から現在の委員の任期（平成31年6月まで）と、次回の開催日程の事務連絡あり

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

<補記>

議題「(1)平成31年度予算及び事業計画」における別紙資料「平成30年度（平成31年3月末）をもって受け入れを停止する雑誌一覧」については、協議会で出された意見を踏まえ、以下の雑誌については、受入を停止しない（受入を継続する）ことといたしました。

○高田図書館

No.27 日本児童文学

○直江津図書館

No. 8 キネマ旬報